

土曜

SATURDAY

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣

医

の

テ



49



山王ペットクリニック
(富山市)

大霜 伽林

黄疸とは皮膚や組織が黄色く染まることです。犬や猫の体は全身毛で覆われているし、爪は黒いし、どこで確認できるのって思われるかもしれません。

ペットの上脛を少し持ち上げてみてください。眼球の白目の部分が黄色くないですか。耳の内側やおなかの毛の少ないところの皮膚が黄色く見えませんか。足の肉球の色や舌の色がオレンジ色っぽく見えませんか。そう感じたら、お宅のペットは黄疸の症状を呈しているのかもしれない。

黄疸は胆汁色素（ビリルビン）が過剰に産生されたり、適切に排せつされなかったりすること

黄疸が示すもの



遠心分離をした血液。黄疸
症状のある動物の血液（左）
は血清が黄変している

重篤な病気のサイン

によって組織が黄染することです。

皮膚の黄染は、血液中のビリルビン濃度が正常値上限の4〜5倍に達したときに現れます。血液を遠心分離すると血清も黄染しています。

ビリルビンが過剰に産生される主な原因は、溶血（酸素を運ぶ赤血球が壊されること）です。フィ

ラリアやダニ、原虫などの寄生虫によるもの、玉ねぎや薬剤などの中毒によるもの、過度の免疫作用によるものなどがあります。

一方、ビリルビンの排せつ障害の主な原因は、肝炎や肝硬変など肝臓の機能低下によるもの、胆石や腫瘍などで胆汁の流出経路が阻塞されることによるものなどがあります。

昨今の獣医学の進歩と、個々の動物病院の検査体制の向上は目覚ましく、病気の早期発見、治療によってペットも長寿の時代に入っています。

しかし、犬や猫などの小動物は、病態を症状として表すことをなかなかしません。むしろ隠そうとします。ですから、症状として現れたときにはすでに治療が困難という場合も数多くあります。彼らの

示す「病態のサイン」を見落とさないことが、健康で元気に寿命を全うさせてあげられる方法だと思っています。

「病態のサイン」とは水を飲む量、尿の量、排尿の回数は増えてないか、歩行時の足の運びに変わりはないか、被毛は薄くなっているかなど、目につきやすいことばかりです。「もう歳だからしょうがない」と考えると、サインを見落とし、その結果、彼らのQOL（生活の質）は低下してしまいます。

今日からは、この「サイン」の中に「黄疸」を加えてください。先述した通り、黄疸を示す病気には重篤なものが多くあります。彼らは人の4倍のスピードで歳を取ります。病態の進行も4倍早いと考え、手遅れにならないためにもこれらのサインを見落とすことなく、健康なペットとの生活をエンジョイしようではありませんか。